



【校長室より】

五高祭・体育祭が終了 そして新たなステージへ

高校の2大行事である五高祭（文化祭）、体育祭が終了しました。

来賓、保護者、地域の多数の方のご出席を賜り、誠にありがとうございました。

両行事とも五高生のすばらしさを表した見事な「祭り」であったと自画自賛するところです。全校生徒諸君の創意工夫が表現された「祭り」であり、それは、2、3年生の実行委員の献身的な働きによってなしとげられたものでもあると思います。

五高祭は9月2日（日）に一般公開が実施されたわけですが、今回のテーマ「∞（イロイロ）」のごとく、生徒諸君のバラエティに富んだ諸活動（個性）を披露することができました。また、ステージ発表が多いのは県下でも本校が突出しているのではないかと思います。体育館、メモリアルホール、野外特設ステージと発表箇所を複数用意しての文化祭は私自身初めての経験でした。生徒たちの意識の高さは見事としか言えません。今回は「挑戦」の意味で初めての企画が目白押しでした。野外特設ステージの設置。その舞台でのチャンコは非常に好評であり、再演を期待するところです。オープニングセレモニーでは、手作りのテーマソングの発表が行われ、今後、五島高校の財産になるものと期待されました。以上のようにステージ発表を中心に大いに盛り上がりましたが、残念なことは、お客さんが、すべての演目をまんべんなく観ることができなかったことです。ステージものが多い故に、複数会場での発表となり、裏番組を見逃すことになったわけです。来年は複数回演技の場を設定する案も検討していこうと思います。

体育祭は9月9日（日）に「虹～555の色（ちから）をあわせて」のテーマのもと行われました。前日、前夜の大雨により実施が危ぶまれましたが、当日は一度だけ雨模様とはなりましたが、競技の障害になるものではありませんでした。むしろ好天過ぎて、熱中症や風による砂埃を心配することもなく、絶好の体育祭日和になりました。体育祭は3年生の実行委員を中心に各クラス、各団が誇りと団結を競ってくれました。各競技の内容も密度が濃く、一人一人が懸命に競技する姿に感動いたしました。また、内容的にも観客を「魅せる」ものでありました。応援合戦、団別演技では各団団長の指導のもと、団員一人一人が統率のとれた演技を披露してくれました。そして、最後実行委員長のリードで五高生全員のサークルにはすべての観客が感動にふるえ、すばらしき青春の発露に酔いしれたものと思います。なお、各団団長の思いは3頁に掲載しています。是非ご一読ください。

さて、2大行事が済んだわけですが、生徒たちにとっては「福江みなと祭り」、衛生看護科の生徒にとっては最も厳粛な「戴帽式」が控えています。節目節目での行事を通して生徒たちはその都度成長していきます。今後とも生徒たちを見守り、その成長を促したいと思います。

3年生はこれからが人生最初で最大の大勝負になります。新たなステージでの「挑戦」が今始まりました。生徒個々人の頑張りはもちろんのこと、教職員一同奮闘努力して3年生を支えていきたいと思います。

1、2年生にとっても新たなステージが待っています。次の舞台への飛躍を促したいと思います。次の主役は彼らです。その意味では五高祭は2年生が、体育祭は3年生が主たる担当という今回の2大行事は、連続、引き継ぎと言うことでは非常に意義ある行事であったと改めて思いをいたすところです。今後の1、2年生の成長に是非ご期待いただきたいと思います。

生徒たちは、今、夢実現に向け新たな一歩を進めています。保護者各位の温かいご支援を改めてお願いいたします。

五高祭 1日(土)・2日(日)

9月1日・2日、五高祭実行委員会を中心として企画・運営した五高祭を成功のうちに終了することができました。今年度の五高祭では、いくつかの新たな企画があった。1つ目は、『屋外ステージの設置』である。洋の広場のバザー会場横にビールケース120箱分の特設ステージを設置し、五高祭の雰囲気作りに貢献した。2つ目は、『実行委員企画』である。各団体の発表内容や日程を紹介したり、実行委員自らが、『∞(イロイロ)』というテーマのコンセプトを表現したり、観客を巻き込んだパフォーマンスをしたりと、5回に渡ってステージ発表をした。そしてもう1つが、『テーマソング作成』である。五高祭には例年、「全校企画」を実施し、全校生徒で何か形に残るものを作成している。今年度は、音楽科の鶴見先生の全面協力のもと、この企画が実現した。全校生徒から五高祭のテーマを表現した歌詞のフレーズを集め、それを実行委員が意味のある文に編集する。そしてその文を解釈し、メロディーをつける。その後、イメージに合うプロモーションビデオを作成する。以上の手順で作成した。完成した作品は、オープニングセレモニーで発表した。後日実施したアンケートでも、大好評であった。

また、「モザイクアートコンテスト」や「有志団体」等の従来の企画も実施した。有志団体としては、五島の伝統芸能である『チャンココ』を披露する団体や、書道パフォーマンスをする団体、そしてバンド演奏をする団体といった多種多様な団体が出演し、それぞれの会場を大いに沸かせた。

また、五高祭実行委員会は1、2年生の有志、1年生の文化委員、そして生徒会執行部員を中心にして結成され、中でも自ら名乗りを上げてくれた2年生たちが中心的役割を担い、各部門で責任を持って各自の役割を果たした。

この行事のために、多大な時間そして労力を費やして頂いた全ての方々、本当にありがとうございました。



五高祭実行委員長

佐々野亨一(2-4)

五高祭実行委員長として、五高祭に関わることができて感謝の気持ちでいっぱいです。それぞれのクラス、有志団体、PTA、先生方の協力があったから素晴らしい「イロイロ」が生まれたのだと思っています。

今回、新しい企画として全校生徒から歌詞を募集しテーマソングを作りましたが、感動してもらえたでしょうか。計画通りにできなかった部分もありましたが、五高生一人ひとりが考えた「イロイロ」な歌詞と、鶴見先生・前川先生の楽曲のおかげで、みなさんの想像を超えたものができたのだと思っています。

実行委員長として「いろいろ」なことを体験させてもらいました。正直大変でした。特に、エンディングセレモニーでは、企画・運営の難しさを感じました。実行委員の気持ち・思いを伝えるために最後の最後まで話し合いました。副委員長、各部門長を中心としてみんなで作り上げた五高祭だったと実感しています。

実行委員長として至らぬ点も多くあったと思います。みなさんから最後までサポートしていただいたことは忘れません。五高祭に関係したすべての方々に感謝しています。本当にありがとうございました。来年度はもっと良い五高祭になることを期待しています。



モザイクアート最優秀賞

1年3組文化委員

平山一章・池田千佳

「順位がつく行事で1位を獲得」というのは1年3組の目標です。この目標の元に、五高祭ではモザイクアートに力を入れました。夏休み前からの取り組みでしたが、何の画像をモザイクアート

にするかによって賞に届くか届かないかが決まると思い、とても悩みました。テーマ「∞(イロイロ)」に沿い、時期に合うものをとクラスで話し合った結果、「オリンピック」が挙がり、地元の内村航平選手の名前が出ました。そこから画像を探し、アイデアがまとまるまでには他のクラスよりも時間がかかっていたと思います。夏休み期間中から糊で折り紙を貼り続け、完成したときはものすごく達成感がありました。先生方からはアドバイスをもらい、副担任の糸山先生には画像の編集を手伝っていただき、そしてみんなで作り上げたモザイクアートで最優秀賞が取れてよかったです。



第61回体育祭 9日(日)

6月の考査終了後の実行委員決定から、団長の立候補から決定まで、またテーマや団色決定、実施要項・競技種目の検討など、実行委員にとって多忙な毎日が始まりました。

8月からは、団長を中心として生徒の活動が始まりました。3年生は学習合宿後から企画書作りを始めましたが、机上での構成と実際にグラウンドで動くギャップに苦労していました。また、リーダーとして大勢の生徒を動かすことの大変さや、チームワークの大切さを実感したようでした。体育祭終了後の3年生の役員に対するアンケートでは、「大変だった分、今までの体育祭より達成感や充実感を得ることができた。」と、多くの生徒が感動を味わってくれていたようでした。

「いい体育祭だった」多くの方々から、ありがたいお言葉をたくさん頂きました。しかし、五島高校の生徒の力はこんなものではないと思います。これからも、現状に満足することなく、もっともっと、「いい五島高校」を作っていく生徒であることを、期待しています!



結果

総合優勝

赤団

応援・団別演技・応団幕優勝：赤団 行進優勝：黄団

体育祭実行委員長 才津佑介 (3-4)

私は体育祭実行委員長という大事な役目を任せられました。最初は不安な気持ちがいっぱいで、「自分にできるのか」「全体をまとめられるのか」と心配ばかりしていました。しかし、同じ実行委員の仲間達が準備など積極的に動いてくれたおかげで、時間に追われながらも最後まで役目を終えることができ、仲間達には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

委員長をつとめることができたおかげで、裏方の仕事がどのようなものかなどを学ぶことができました。

体育祭当日は、時々雨が降る中、たくさんの人に見に来ていただき、うれしかったです。全校生徒が競技に一生懸命に取り組み、練習の成果を十分に発揮してくれたおかげで思い出に残る体育祭ができて、本当に良かったです。

赤団団長 明石良平 (3-1)

先日、多くの方々のご支援、ご協力を受けて、団長として臨んだ最初で最後の体育祭を無事終えることができました。体育祭が終わるまでには団長として、団として、多くの困難を乗り越えてきました。団長に立候補し、決定して夏休みに入り、係を中心とした話し合いを始め、衝突を繰り返しながら、まず3年生への指導が、数日たってから1・2年生への指導が始まりました。全体への指導がすすんでいく中、自分の団長としての自覚が足りず、何度も団の皆に迷惑をかけ、先生方からたくさん怒られました。そのたびに自分が本当に団長をしていいのかと思いましたが、団別活動で団員が熱心に練習している姿を見て、自分も頑張らなければいけないと元気づけられました。そして迎えた当日、団員みんなの努力が実り、優勝することができました。頼りない団長でしたが、赤団のみんなはしっかりとついてきてくれました。本当に感謝しています。そして僕たちに協力してくれた五高生全員に感謝しています。これから3年生は勉強一色になりますが、体育祭のように一丸となって受験に向かいたいと思います。みなさん本当にありがとうございました。



黄団団長 中山幸輔 (3-4)

こんにちは。元黄団団長 中山幸輔です。団長を任せられるような生徒ではありませんが、団長をすることになりました。任せられたからには！と意気込んでやってみるものの、常に自分が団員一人一人を引っ張っていけるのか？という不安がありました。あいにく先生からは怒られっぱなしで、みんなには本当に申し訳なく思っています。しかし、黄団のみんなは嫌な顔もせず、ついてきてくれましたね。みんな元気があって、一生懸命練習してくれている姿を見るだけで、僕の支えとなりました。体育祭では、優勝してハッピーエンドとはいきませんでした。団長をやった良かった、と心の底から思いました。厳しく指導して下さる先生方がいらっしやらなかったら、この喜び、達成感は絶対に味わえなかったと思います。僕に関わってくれた全ての人に本当に感謝しています。最後に下級生のみなさん！文化祭や部活動で本当にきつかったと思います。でもみなさんのおかげで3年生は思い出に残る体育祭にできました。みんなありがとう！！これからも「チーム五高」虹となって躍進していきましょう！！



青団団長 角田侑也 (3-5)

体育祭が終わった。自分たち青団は一つも賞をもらうことができなかった。閉会式の間中、くやしきからあふれだした涙をすすする音をずっと背中であらっていた。振り返ってみるとこの体育祭期間中で、学園ドラマに出てくるような青春をたくさんした。思い通りに行かず、苦しみ涙し、普段仲のいい友達を本気で怒ったりもした。結果はどうであれ、自分たちはやったという気持ちが自分の中にはあった。それは他の団員も同じだった。最後の解団式では、みんな弾けんばかりの笑顔で本当にこの団で良かったと心から思った。自分は団長として頼りなく、周りを見る余裕などまるでなかったが、そんな自分に最後までついてくれた青団のみんなに感謝したい。決して楽しいことばかりではなかったが、最後は団のみんなが最高の笑顔で終わられて良かったと思う。誰が何と言おうと、この体育祭は最高のものであり、一生心に残る思い出となったと思う。

自分たち3年生はこれから、それぞれの進路実現という大きな目標がある。この体育祭の成功を支えて下さった、先生方、保護者の方々、地域の方々に感謝の心を示す意味でも、次こそ最高の結果で嬉し泣きができるよう頑張りたい。



第3学年より

第3学年主任 楠本 亨

体育祭が終了して2週間経ちました。切り替えはできていますか？体育祭後の教室・廊下の環境や君達の立ち振る舞いで、今年の体育祭が成功したかが分かります。思い出は心の奥にきちんとしまっておいて、気を引き締めてこれからを過ごしていきましょう。

さて、これから卒業までは、君たちにはひたすら学習あるのみです。そのためには100%の準備をすることです。君達にとっては初めての大学受験です。相手は全国の高校3年生+浪人生です。受験という勉強のインターハイで「これくらいいい。」という発想はしないし、できないはず。目標を達成するためにも、一切の妥協をしないでください。

義足のランナーとして初めてオリンピックに参加し、400Mに出場した南アフリカのオスカー・ピクトリウス選手の母は、「敗者とは最後にゴールする人ではなく、はじめから出場をあきらめてしまう人だ。」と励ましていたそうです。

これから苦しいのは自分だけではありません。周りのみんなも苦しくなります。先生方はいつも君達の進路を考えて必死になっています。信頼してついてきてください。

君達は現在、途中下車の許されないノンストップの乗り物に乗っています。目的地はそれぞれの「進路実現」です。進路実現がかなうまで途中下車が許されません。その覚悟でこれからの日々を過ごしてください。

一日救急隊長 13日(木)

平成24年度「救急医療週間」に伴う行事の一環として、一日救急隊長に衛生看護科3年生の池田瞳さんが任命されました。五島消防署内で救急車の説明を受けた後、実際の救急搬送の流れについて学びました。その後、ダイキョウバリューに移動し、一般市民向けの啓発広報運動を行い、広く市民の皆様へ救急医療について理解していただくよう呼びかけました。



感想 衛生看護科3年 池田 瞳

今回一日救急隊長として、多くのことを体験させていただきましたが、この体験を通して、救急医療の大切さについてより深く学ぶことができました。救急搬送については実際の搬送事例にも遭遇し、私たち五島市民が安心して生活できるのは、医師や看護師はもちろんですが、救急医療に携わる多くの方々のご苦労があつてのことだと、よくわかり大変勉強になりました。今回、学んだことをもとに、これからも頑張っていきたいと思えます。

親子ふれあい活動(13・14・18日)

1年生普通科を対象に、本校セミナーハウスで「親子ふれあい活動」を実施しました。

「親子ふれあい活動」は、乳幼児親子に高校へ来ていただき、乳幼児親子と生徒がふれあいの時間を持つ取り組みです。

今回はのべ42組91名の乳幼児親子に参加協力をいただきました。乳幼児の親御さんからの妊娠中の様子や子育ての楽しさ・苦労話、乳幼児との遊びをとおして、自分の生き立ちを振り返り命の尊さに気づくよい機会となりました。



<生徒感想より>

- 最初は緊張してお母さん方もうまく話せず戸惑いましたが、だんだん遊んだりできるようになってきて、モチモチしたほっぺなどに触れて、改めて赤ちゃんて可愛いなあと思いました。人見知りの子もいたけど、最後帰る時に手を振ってくれたので嬉しかったです。やっぱり母親ってすごいなあと思いました。私も今日家に帰ったら、いろいろ聞いてみようと思います。私も将来いいお母さんになりたいです。
- この活動を通して、命の尊さやお母さん方の変なことを学ぶことができました。考えていた質問をすべて聞くことはできませんでしたが、お母さん方と話をすることで乳幼児について知ることができました。また、あるお母さんには妊娠中のエコー画像を見せてもらい、命とはすばらしいと思いました。1時間はあっという間で子どもたちと思うようにふれあうことができませんでしたが、自分の将来のためにもとても役に立つ活動になりました。

読書感想文コンクール 25日(火)

9月25日(火)のLHRの時間に、1・2年生を対象とした、校内読書感想文コンクールを実施しました。このコンクールでの対象作品は、生徒の皆さんが夏休みに書いた読書感想文の中から選ばれた6点です。その結果は以下の通りです。

最優秀賞	1年 池田 千佳	
優秀賞	2年 菊谷奈々美	1年 降田 貴大
佳作	2年 出口 愛美	2年 平野可奈子
	1年 山川 遼	

五高祭・体育祭バザー お礼

9月2日に五高祭における食物バザー・リサイクルバザー・飲料バザー、9日に体育祭における飲料バザーを実施しました。当日は、ご多忙の中、たくさんの保護者の皆様へ調理・販売のお手伝いをいただきました。また、事前の物品提供や準備に関しましても、保護者の皆様にはたくさんの御協力をいただきました。購入いただいた皆様方も含め、改めてお礼申し上げます。

来年度は、今年の経験を生かし、生徒・地域の皆様によりお楽しみいただけるバザーを目指したいと思います。御協力ありがとうございました。